問 ごみ焼却場の広域化は
答 審議会答申を踏まえ判断

米澤 修司 議員（民主党）

問 ごみ焼却場について、ごみ減量化推進審議会は「枚方市との広域処理が、財政、環境面で優位となる可能性がある」と中間報告を行った。枚方市との可燃ごみ広域処理についての検討状況、地元説明、国の交付金制度活用は。

（市長）審議会の答申を踏まえ、市民のみなさんの意見をお聞きした上で総合的に判断。

（経済環境部長）地元4地区とは、施設整備に関する協議や連絡、情報提供等をおこなっている。現在基本構想の審議内容について区民を対象に回覧を行っている。交付金制度は平成26年度より効率の良いエネルギー回収などに対して重点化が図られた。

問 24年に友好都市提携に係る条例が制定された。友好都市提携に向けた計画や取り組みは。近隣諸国との友好都市提携についての考えは。

（市民部長）災害時相互応援協定を締結した霧島市や習志野市とは友好交流の取り組みを進めている。今後、観光協会や各種団体と協力し市民レベルでの交流を一層深め、友好都市提携締結が実現できるよう努めたい。近隣諸国との友好都市提携は重要と認識している。検討を進めたい。

問 本市の人口推計による大住ケ丘などは高齢化率が50%にもなり、同志社山手地区などでは年少世代の増加が見込まれる。また、人口減少による余剰な公共施設の解体も課題となり、借金して解体するとなると次世代の負担となる。市の認識と考えは。

（企画政策部長）大住ケ丘などは高齢者福祉の充実、独居老人、空き家対策や住み替え促進対策が課題。年少世代増加地区では、育児や教育環境の整備が課題である。また公共施設の現況や将来的な課題に対応した計画策定の準備を進めている。

市長に答申を渡すごみ減量化推進審議会
（9月26日の手交式）

問 神矢樋門の排水能力の拡充を
答 能力は確保できている

増富 理津子 議員（共産党）

問 平成25年6月に成立した「子どもの貧困対策法」がうたう「地方自治体の責務」を踏まえ、本市の子どもたちの貧困についての認識と早急に着手すべき課題について市長、教育長の考えを問う。また、実態の把握を。

（教育長）子どもに対する教育の支援、生活の支援等、子どもの将来が、その生まれ育った環境によって左右されることのない社会を実現することが必要と考える。

（市長）全ての子どもたちが、健やかに成長するための環境を整えることが大切であると思っている。

（健康福祉部長）子どもの貧困については、今のところ把握できていない。

問 独居老人や老老世帯に対する行政サービスの充実に向けて、包括支援センターの役割は重要になってきている。新規計画の中で、充実と増設の計画を。

（健康福祉部長）3カ所の地域包括センターを中心として、相談センター5カ所をネットワークの拠点とし、包括支援センターの出先として位置付け、機能を充実させていく。

問 内水氾濫、特に低地域においての対策を強化すべきである。神矢樋門の排水ポンプの雨量設定と排水能力の拡充と見直しを。

（建設部長）神矢樋門の排水ポンプについては、一定の排水能力は確保できていると考えている。

問 新田辺踏切から田辺高校までの道路拡幅と、歩きにくい東住宅、商店街の道路整備、及び駅前広場の整備について、今後の市の考えは。

（建設部長）バリアフリー基本構想において、生活関連経路と位置付けした路線を優先的に、順次整備を進めている。今後は、駅前広場を含めた整備方策について、検討が必要と認識。

内水氾濫対策にかかせない排水ポンプ
（神矢樋門）

問 ポトラックの場所充実を
答 状況を勘案しつつ検討中

河田 美穂 議員（公明党）

問 「ポトラック」の場所、開所時間などを充実するべき。

（教育部長）平成26年度から夏季休業中に3日、9月より週1回の午後開室を実施。場所は状況を勘案しつつ、検討中。

問 不登校児の進路相談、京都フレックス学園の説明会や紹介などの充実をすべき。

（教育次長）個に応じて相談している。説明会は中学校にも紹介したい。

問 避難所生活では、早いうちから運動習慣をつけるように、競技形式の防災運動会の導入などの工夫を。

（危機管理監）各地域の運動会などに、種目の一つとして取り入れてもらうなど、地域ぐるみで防災への意識向上を図る対策として取組む。

問 防災士養成を急ぐべき。

（危機管理監）現在、3名の段階での「心のケア」を同志社大学の心理学科と連携するなど、しっかり対応するべき。

（副市長）大学にどういうことが可能なのか聞いてみたい。

問 防災訓練に一人でも多くの市民が関心を持って参加される方が、26年12月に開催される講座の受講申し込みをされた。さらなるPRに努める。

問 健康長寿のため、現役時から運動習慣をつけるように「歩きやすい道の地図」の配布など取組みを充実すべき。

（健康福祉部長）26年度「楽歩塾」の参加者を中心に情報を集め、マップづくりに取り組み、27年度には「お勧めウォーキングコース」のPRなどを充実したい。

問 市民・市職員の食生活の改善として、市役所内のレストランで、「健康な食事」の認定マークを付けられるような、弁当や定食を提供してはどうか。

（総務部長）利用者へのサービスが向上するように、本市から事業者への要望等を行っていきたい。

不登校児のふれあい教室
ポットラック

問 甘南備園建て替え 単独か広域か
答 市民の合意が大事

塩貝 建夫 議員（共産党）

問 ごみ焼却施設甘南備園の建て替えは、市単独か、枚方市との広域化か、市の方針を問う。

（経済環境部長）甘南備園の建て替えについては、市単独を基本としながらも、広域化についてもごみ減量化推進審議会で審議されている。その答申内容をふまえ、市民の皆さんの意見を聞いた上で、総合的な判断をしていきたい。

問 枚方市との広域化をする上での具体的な課題について、市の認識を問う。

（経済環境部長）広域化の対象施設は、甘南備園と枚方市穂谷清掃工場である。広域共同施設建設規模は180㌧、本市70㌧、枚方市110㌧という基本計画の数字である。枚方市は、穂谷での焼却施設建て替えはしないと表明されている。広域共同施設建設場所は、本市では現甘南備園、枚方市は東部地域となる。両市とも新たに施設建設の用地拡大が必要となる。経済性の問題では、国の交付金制度が平成26年度から変わり、熱回収率10%に満たない場合は交付金が受けられなくなった。通常100㌧炉以下では熱回収が非常に難しい。

問 今後の日程と、全市民への説明責任を果たし、住民合意を丁寧に進めるべきと考えるが。

（副市長）枚方市とは最終結論が出ていない。大事なのは、市民の皆さんの合意を得ること。市民の声を直接聞く場を設け、わかりやすい資料提示を行い、皆さんのご理解を得ていくという手続きを踏んだ上で、最終決定していきたい。

問 教職員の超過勤務是正の取り組みについて問う。

（教育部長）26年の退勤時刻の状況は、21年2月の結果と比べ、小中学校ともに30分退勤時刻が早くなっている。中学の部活については、各校で部活動規定を作り努力している。

建て替え時期が迫る甘南備園